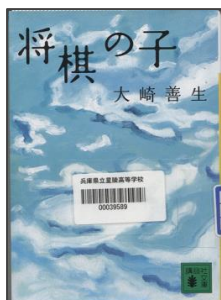


渡辺明(将棋プロ棋士九段、永世竜王)『**頭脳勝負**—将棋の世界』(ちくま新書)

大崎善生(ノンフィクションライター)『**将棋の子**』:23回講談社ノンフィクション大賞(講談社文庫)



だれか将棋の好きな人はいませんか。かつての名人に米長邦夫という人がいたのですが、4人兄弟で、末っ子、「兄たちは頭が悪いから東大に行った。」と発言して話題になったことがあります。受験勉強のような、すでにある事実の集積力を競うタイプの記憶力や思考力を、将棋や囲碁、チェスなんかの思考力と比べることができるかというと、ちょっと難しい。しかし、ものすごいスピードで「脳」を活動させていることは間違いない。『頭脳勝負』は将棋を少し知っていないとついていけないかもしれない。『将棋の子』の方はプロになるための奨励会という新人選抜組織があるのだけれど、そこではプロを目指している少年や少女がしのぎを削っている。その修練の日々を描いたドキュメント。将棋を知らない人も違った感動を体験できるかもしれない。(館長)